

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400047		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	グループホームあおぞら 星ユニット		
所在地	三重県亀山市羽若町字西野834-41		
自己評価作成日	平成29年8月15日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2490400047-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2490400047-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 29年 9月 5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が自分らしい暮らしを続けて頂けるように、ご自身の『できる力』を最大限に生かす事ができる生活環境、それぞれのご利用者様のペースに合わせた生活リズムの提供など、その方らしさに着目した個別ケアに日々取り組んでおります。また、花見や花しょうぶ見学、盆踊り、初詣等の四季を感じられる行事や地域のイベントへの参加、外出支援にも取り組んでおります。『目の前のご利用者様の笑顔の一つでも多くみたい』その一心で職員一同、日々邁進しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は、高齢者・障害者がいつでも必要なサービスが受けられるネットワーク作りを推進して誰もが安心して暮らせる町づくりをめざしている。法人の理念に加え、2つのユニットが職員で考えた個々の理念を掲げ、管理者の熱意と指導の下理念の共有に努め、関係者間のコミュニケーションを大切に、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりのやれる事、やりたい事を探しながら個々の生活を重視した暮らしを支援している。日頃から利用者の話に耳を傾け、地域の季節行事に参加支援で地域交流もしている。利用者、職員共に和やかな雰囲気の中で楽しく過ごしている様子が伺える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に沿った目標管理を行うと共に、ユニット独自の理念をリビングに掲示する事で認識・実践に繋げている。	2つのユニットが個々の理念をリビングに掲げ、全職員がカンファレンスで話し合い理念を共有している。職員が利用者に常に話しかけコミュニケーションを取り、折り紙細工やレクリエーションを通じて笑顔を引き出す様な支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治体が企画するふれあい教室や夏祭り、同法人施設で開催されるボランティア行事に参加している。	地区開催の盆踊りに参加したり、サックス演奏・フラダンスの地域のボランティアの訪問で利用者に笑顔が見られる。また、同地区の幼稚園との交流や近隣住民に、敷地内の草取りや畑作りを手伝ってもらったりして、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人が主催している介護予防教室に参加し、GHについての説明やGHでの生活、認知症の方への支援についての講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第三金曜日に開催。GHの利用者様にも参加して頂き日々の生活について話して頂けるようにしている。	地域包括支援センター・在宅支援センター・自治会長・家族が出席し、定期的に年6回開催されている。事業所の行事・活動・事故報告とともに、参加者から意見・質問等が出て積極的な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催している、地域密着型サービス連絡会に参加し情報交換等行っている。	事故報告等について広域連合に書類や電話で相談している。介護保険制度上の事、認定更新の事等、積極的に相談出来る関係である。亀山地域密着型サービス事業所連絡会の事例検討会に参加し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人内事業所が主催している勉強会に参加したり、写真付きマニュアルを作成しどのような行為が『身体拘束』にあたるのか、すぐに確認できるようにしている。	「身体拘束ゼロの手引き」とグループホーム独自の写真入りマニュアルを作成し、利用者の行動を制限するのではなく、安全に配慮しつつ自由な生活が出来る様にさりげなく見守りを徹底するなど工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	亀山市虐待防止マニュアルに沿って、身体拘束について職員間で話し合いを行ったり、虐待に近い行為に気付いた場合は、その場でミーティングを実施し、話し合っている。また、検討内容についても共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等で説明を行い、制度の啓発や知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者及びサービス計画作成担当者をご本人やご家族へ十分に説明を行い、終了後も不安や疑問点などの相談に応じられるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に直接ご要望やご意見を伺うようにしている。また、頂戴したご要望やご意見は運営推進会議にて取り組み内容を含め報告するようにしている。	面会時や運営推進会議で要望を聞いている。「フォットフレーム」の要望が家族から出たが使いこなしが出来ず課題が残ったが、「体操をやってほしい」との意見で毎日体操を実施する事で、利用者に笑顔や活気が出た。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場で出た意見や提案などは、申し送り時やミーティングで話し合いを行ったり、個別に職員と面談する機会をもち意見や提案を運営に反映できるよう努めている。	管理者やリーダーは、気軽に話し合える雰囲気があり、朝の申し送り時に要望や意見を言える機会がある。利用者の外出支援内容や介護内容等、出された意見は「利用者・職員連絡ノート」に記入し、ミーティングで話し合い支援に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則や給与規定等は全職員に回覧し周知できるようにしている。管理者は、適時職員からの相談に応じる等、良好な職場環境となるよう努めている。また、法人全体で職場環境・条件の整備改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行われている勉強会や同法人のGHの職員が集まり意見交換を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会に参加し、他施設との意見交換や事例検討会にて、自分達のケアの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、ご本人様と事前面談を行い、現在不安に思っている事や要望等をお聞きし、サービスを安心してご利用頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様同様、ご家族とも面談を行い、家族としての不安や希望をお聞きし、悩み事や困ってみえる事をお聞きする事で解決に繋げられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の現状や生活環境、ご家族様との関係性を把握し、他サービスも含めご紹介し、その方が現在最も必要とされているサービスを利用して頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の『できる力』を最大限に活かせる生活環境に重点をおき、協力し合いながら共存していける関係性の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡などで、近況報告を行いながらご家族にしかできない支援について留意し、負担にならない程度での協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば自宅周辺までドライブを行ったり、馴染みある病院への受診や、かつて利用されていた施設への訪問等、馴染みの場所や関係性について、できる限り継続できるよう努めている。	個々の希望を本人や家族に聞き、墓参りやお正月には自宅に行く利用者もいる。また、馴染みの店に買い物に出かけ知人に会い喜ばれた利用者もいる。利用者の家族や知人の訪問を継続してもらう為に、再訪を言葉で依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれのご利用者様の人間性を把握し、会話の橋渡しやコミュニケーションの手助けを行なう事で、互いに尊重し合えるご利用者同士の関係性の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後の生活について、可能な限り様子をみに伺うようにしている。また、相談を受けた場合にも随時対応するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動の中から希望や意向を把握し、困り事や要望があった場合はその都度、話し合える時間を持ち、ご本人が納得して解決できるよう努めている。	職員は利用者寄り添い、会話や表情・行動から思いや意向を把握している。把握が困難な場合はカンファレンスで職員間で話し合い、利用者の視点で物事を考えた支援を共有し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査にて、生活歴や馴染みの暮らし方や生活習慣について聞き取りを行っている。勿論、サービス利用状況についても、サービス提供していた事業所等に連絡し、可能な限り情報の聞き取りを行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやバイタルチェック、家事や掃除等を一緒に行う事で、その日の気分や体調変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれのご利用者に担当職員がついており、モニタリングや、担当職員を中心としたカンファレンスの実施、介護計画の立案や評価、介護計画の見直しを行っている。	毎月モニタリングを実施し、3ヶ月毎にカンファレンスを開催し、介護支援専門員・職員で話し合い、本人・家族の意見・意向を聞いて見直しを行ない、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやミーティングで、ご利用者への気づきや変化等の情報を共有し、対応策について意見交換を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が困難な場合は、随時病院受診や買い物支援等の対応を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回介護相談員が訪問され、ご利用者の声を聞いて頂いている。運営推進会議では自治会長様にも参加して頂き助言を頂くようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には、協力医療機関の説明を行っているが、これまでのかかりつけ医との関係継続もご利用者支援の要点となる為、ご本人・ご家族に選択はお任せしている。また、必要時には、受診に同行し担当医との関係構築に努めている。	契約時に本人と家族の同意のもと、かかりつけ医は大切だと思いついて主治医としている方が半数いる。基本受診は家族送迎であるが必要に応じて職員も行っている。受診後は「個人観察記録」に記入し全職員が共有し、家人には電話連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が在職していない為、病院受診時や同法人内の看護スタッフへ適時相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室SWや看護職員との連携を深める事で、ご利用者様の状態を随時把握しやすい環境をつくり、GHへの受け入れ態勢がスムーズに行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前、終末期ケアを行った機会もあり、指針も作成している。状態変化に応じて、ご本人やご家族の思いや意向について話し合いを重ね、思いや意向に添える支援に努めている。	重度化した場合事業所で対応できる状態まで支援しているが、その後は病院や介護施設と連携を取って支援している。家族や医療関係者と連携を取りながらチームで支援するには現時点では不安など課題があると職員は考えている。	将来において重度化や終末期の支援は、欠かせないと考えられることから医療機関との連携と、運営者・職員・家族と話し合いの上、事業所としての方針を定められる事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は適切な判断が不十分な為、緊急搬送を要請している。急変時のマニュアル確認や救急法の研修は繰り返し参加し、知識の習得にGH全体で取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合いのもと、消防訓練・防火訓練を実施している。職員全員が迅速に対応できるよう定期的に訓練を継続している。また、自治会長様の協力のもと、地域の防災マニュアルを基に訓練を行うなど連携体制を強めている。	消防署立ち合いの下、夜間想定した防災訓練をして、夜間2名の職員で通報避難訓練をした。今後課題も確認する事ができ、地域防災マップを参考に全職員が対応出来る様に訓練を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念を常に感じながら、謙虚な気持ちで関わらせて頂くようにしている。	排泄時や入浴時の衣類交換時の支援は、充分に注意して行う等職員間で認識している。法人主催の研修を受け、言葉使いには特に注意し、話題によっては気分を害さない様に表情や様子に気を付ける事を全職員が共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者との話し合いの中で、ご本人自身が選択し、決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴や生活習慣、ご本人の本質的部分からご本人が希望する生活スタイルの把握し、できる限りご本人のペースでの暮らしを継続できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの方の容姿への想いを汲み取り、こだわりや趣味嗜好に応じた服選びや身だしなみのお手伝いを行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の献立には四季折々の食材を取り入れている。一緒に準備や調理を行う事で張り合いや楽しみを持ってもらえるようにしている。	ユニット毎に利用者の好みを聞き入れ(嫌いな物は別の物に変更)献立をたて、職員と一緒に買い物や調理される方もいる。ガーデンパーティ(敬老会)で、特別食にして食事の楽しみを支援している。また、畑で採れた野菜を収穫し料理する楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量は、健康チェック欄に記載し毎日の変化が一目でわかるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けやご自分でできない方には、個別に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間や排泄の間隔を把握し、定期的に声掛けを行う事で、トイレでの排泄ができるように努めている。	利用者の体調を見て水分量・トイレ誘導の時刻等を個々に記録し、排泄パターンを全職員が把握している。声掛けや寄り添ったトイレ誘導する事で、排泄の自立を促しており、リハビリパンツから布パンツになった方も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に注意し、便秘気味の方にはオリゴ糖や食物繊維を多く含む食事メニューを提供し、便通を良くするよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴は行っている。出来る限り希望通りに入浴して頂けるよう努めている。	毎日の入浴も可で、個々希望の時間に入浴している。午後三時から入浴希望の方は、昼食後から自分で衣類を自室で準備し入浴を楽しみにしている姿が見られる。柚子湯・菖蒲湯で季節感を味わってもらい入浴が楽しい時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、ご本人にお任せし、眠れない方には安心して眠りについて頂けるよう寄り添い会話をもつようにしている。また、日中でも自室での休息は自由にして頂けるような環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに『お薬情報』の原本をはさみ、副作用や効能を理解出来るようにしている。受診記録や処方薬の変更についても随時、ご利用者の健康状態と併せて担当職員が記録するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中での会話や、ご家族からの聞き取り等から、嗜好や楽しみ等の情報を得て、ご利用者それぞれが張りのある生活を送って頂けるような支援展開を意識して実施している。。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や花菖蒲見学、地域の祭りにも、年間行事として参加して頂いている。また、買い物やドライブを希望された際は、随時対応できるようにしている。ご家族にも協力して頂きながら、墓参りや自宅で過ごせる時間をもって頂けるように努めている。	利用者個々の希望で、市の福祉センターでのカラオケ・将棋・近くの足湯・藤の花見・東海道ひな祭り見学に出かけている。外出先で小物を売っている出店で、「これいいな、素敵やな」と自分に合わせ笑顔が見られた。	その人らしい暮らしを保ち、意欲や自立を保つ為にも事業所の中だけで過ごさず、外出の機会が大切である。事業所の玄関先の広場での外気浴等、日常的に外出の機会を多く持たれる事を期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や受診時に使用する為、ご家族様より用途について同意して頂いた上で、お金をお預かりし、GHで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡の希望があった場合、必要な支援を行い自由なやり取りが可能となるよう配慮している。また、実際に携帯電話を所持されている方もみえ、自由に『大切な方』と連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、四季を感じられる作品を作成したり、飾ったりしている。また、特定の時期になると光の入り方が変わってくる為、適時テーブルの配置をご利用者と共に検討し変更している。	利用者の行動と居室やトイレの入り口が厨房から一望できる。居間兼食堂は天井が高く、自然の光が入り明るい。廊下にはソファが置かれ利用者の休憩場所になっており、居心地良く工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士の関係性に配慮しながら、テーブルやソファの配置を行っている。また、互いの生活スタイルを尊重できるような環境設定にも配慮し支援提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は、愛着のある使い慣れた物を持ち込んで頂き、なるべく今までの生活に近い環境の中で暮らして頂けるようにしている。また、好きなアイドルの写真や、家族の写真を飾るなど、その方らしいお部屋づくりをして頂けるように努めている。	自宅で使用していた家具が置かれ、家族写真が飾られ個性的な居室となっている。馴染みの家具を置くことで自宅に近い環境を作り、利用者が安心して過ごせる様に工夫されている。全居室からは、畑や草花がある庭を眺める事ができゆったり出来る工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室からリビングまで廊下が一直線になっており、それぞれの方の移動手段で廊下の行き来を行い、リハビリ的空間にもなっている。また、本来手引き歩行で移動されている方が、椅子や設置手すり、居室の位置などを上手く利用し見守り歩行が可能となっている例もある。		